平成26年度第2回診断評価等基準委員会議事録

開催日時：平成27年1月15日（木）19:30 - 20:30
開催場所：神戸ポートピアホテル 5階 552・554

出席者：紺野 愼一（担当理事）、川上 守（委員長）、金森 昌彦、寒竹 司、
竹内 大作、橋爪 洋、福井 充
欠席者：笠井 裕一、細野 昇

報告
1．委員交代の挨拶
今回より種市洋委員に代わり、竹内大作委員が着任した。竹内委員は獨協大学「腰椎変性側弯症の健康関連QOL低下に及ぼすX線学的（脊柱変形）パラメータを検討する多施設横断研究」の実務を当初から担当して来た経緯があり、種市委員からの引き継ぎには支障ないことが確認された。
2．JOABPEQ，JOACMEQ使用に関する問い合わせについて
川上委員長より下記2件の報告があった。
① 入力支援ソフトでのパスワードの公開に関する問い合わせ
日本整形外科学会会員よりJOABPEQ，JOACMEQの入力支援ソフトを電子カルテにインストールする際にパスワードを求められるので、パスワードを教えて欲しいとの要望あり、当委員会委員によるメール審議（平成26年7月29日）を行った。結果、ソフトを上書き保存する際にパスワードを聞かれるが、「名前を付けて保存」すれば問題なく電子カルテ上でも使用可能なことが判明したので、そのことを説明し、同会員から以後何も問い合わせがない旨、川上委員長より説明があった。
② 非会員から使用の問い合わせ
次のとおり、日本整形外科学会へ「患者立脚型評価質問票使用申込書」で問い合わせがあったことが川上委員長より報告された。
- 製薬会社（小林製薬）から（平成26年9月5日メール審議）
- 脳神経外科施設（大津市民病院）（平成26年10月31日メール審議）
– 脳神経外科施設（函館脳神経外科病院）

議題
1．JOABPEQ,JOACMEQ使用に関して

① 日本整形外科学会からの問い合わせに関して
② 非会員の使用状況に関して

いずれも、当委員会としてはJOABPEQ、JOACMEQの使用を制限する立場ではないが、マニュアルに準拠して適正に使用して頂くことが条件であることが確認された。また、今後は個々の問い合わせの度にメール審議するのではなく、原則として担当理事と委員長が判断することとなった。

2．JOABPEQ健常者調査について（担当：橋爪委員）

平成26年12月26日付けで採用通知があったことが橋爪委員より報告された。また、JOABPEQ健常者調査論文とJOACMEQ健常者調査論文をOpen Accessとするかどうか審議された。現時点まで Open Access とする予算を獲得していなかったので、紺野担当理事から日本整形外科学会理事会で予算申請（1 論文につき3000US ドル）して頂き、予算が得られれば、橋爪がSpringer社と連絡をとってOpen Accessの申請を行う旨決定された。

3．プロジェクト研究進行状況について

①「腰椎変性すべり症に対する手術治療法の有用性に対する JOABPEQ を用いた多施設前向き研究」（担当：寒竹委員）

寒竹委員より、平成27年1月現在、固定群53例、除圧群31例の登録が行われ情報収集が進行中であること、固定群20例、除圧群7例の途中解析では除圧群の方が疼痛関連障害、腰椎機能障害の獲得点数が高い傾向にあること、しかし術前の腰痛 VAS 値あるいは疼痛関連障害についても除圧群の方が高いので、今後サンプル数を増やして更なる検討が必要なことが報告された。

②「腰椎変性側弯症の健康関連 QOL 低下に及ぼす X 線学的（脊柱変形）パラメータを検討する多施設横断研究」（担当：種市先生）

竹内委員より、現在までに 145 例（当初の予定 216 例）の調査が終了していること、症例群の内訳は1群43例、2群48例、3群54例であること、参加18施設のうち3施設の症例登録がゼロであること、各施設の割り当てである12例（各群 4 例）を達成しているのは 7 施設であることが報告された。統計解析を行うには各群50例以上サンプル数が必要なので、まず症例未提出の施設に協力をお願いし、それでも集まらない場合は既に終了している施設で分担し、足りない分を補うこと、2月末をデータ収集の締めとすること、東洋検査センターへの委託料支払い時期については紺野担当理事に一任することが決定された。

③「術者によって頚椎症の手術成績（JOACMEQ）に差があるか」（担当：細野委員）
細野委員からの報告文書が川上担当理事より読み上げられた。
　データ収集は、ほぼ完了した（未提出は１施設のみ）。
　術者毎の症例数30例を目標にしていたが、これに満たない施設もある。
　夏頃までにはデータ解析が終了し、結果を示すことが可能と考えている

4．プロジェクト研究へのインセンティブについて
　紺野担当理事より、インセンティブについては理事会で議論が始まったところであり、どのような形になるかまだ決まっていないことが報告された。当委員会としてはインセンティブが必要という認識に変わりないことが確認された。

5．新たなプロジェクトの可能性について
a．JOABPEQ/JOACMEQ使用論文の国際ジャーナルでの掲載状況について
　紺野担当理事より、JOABPEQとJOACMEQの利用を促進するために、現在までにどれだけの医学論文（英文誌）で当診断評価法が使用されているかの調査する案が提示された。Pub Med で Key Word 検索して、JOABPEQ/JOACMEQ 使用論文がJOS, Spine, Euro Spine などで掲載されている状況を調査するなどの方法が考えられるが、具体的にどのように進めるか後日メール審議することが決定した。
b．JOABPEQ、JOACMEQ偏差得点の開発について
　先に行った健常者調査のデータを福井先生に検討して頂くこととなった。
C．JOABPEQ、JOACMEQ 得点で治療が有効であると判断する基準（20 ポイント）の根拠について
　このことについて、JOABPEQは高橋和久先生、JOACMEQは米延策雄先生が論文を書く予定であったが、今のところ publish されないままになっている。各先生に状況を確認した上で、委員会として早急に対応する必要があるとの認識で一致した。改めて論文化する場合、福井委員が中心となり作業を進めることとなった。

6．その他
　次回の当委員会開催はJOA総会に合わせて開催する方向で検討する（5月21日または22日が候補）。